

名 称	令和4年度鋼矢板・鋼管杭に関する技術講習会【ライブ配信】		
実施日	令和4年12月8日(木)	実施場所	関東支部会議室からZoomによるライブ中継
参加者数	54名(会員54名(32社)、事務局・発表者:河川専門委員会委員5名、(一社)鋼管杭・鋼矢板技術協会5名、合計64名)		
実施目的	<p>本講習会は、河川構造との関連の深い鋼矢板・鋼管杭について、これまでもお互いの技術力向上のため、建 関東支部河川専門委員会と一般社団法人 鋼管杭・鋼矢板技術協会との合同開催で行われてきました。 昨年は、「鋼矢板護岸の補修・補強・更新マニュアル」が改定されたことから、このマニュアルの解説を中 心に、鋼管杭・鋼矢板技術協会の委員に、詳しく解説してもらいました。今回はこの時出た質問内容の解説や、 日ごろ建設コンサルタント技術者が疑問に思っていることについて、ピックアップし解説、質疑を行うことで、 設計実務に役立つ情報の取得を目的として実施した。</p> <p>また、併せて、河川構造物の基本となる鋼矢板に関する基本的な説明、および最新の話題提供についても講 演していただき、技術力の向上を目的とした講習会を実施した。</p>		
実施概要	<p>1. 開催概要</p> <p>本講習会は、令和4年12月8日(木)13:30~16:30に下記プログラムに沿って開催した。新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、建設コンサルタンツ協会関東支部会議室からZoomによるライブ中継を行った。</p> <p>講習会では、一般社団法人 鋼管杭・鋼矢板技術協会から4名の講師に講演していただき、鋼矢板・鋼管杭の基礎技術、Q&Aの解説、最新技術動向を講演していただくとともに、建設コンサルタンツ協会関東支部河川専門委員会からも1名の講師に参加していただき、ディスカッション形式での講演を行った。このときに、チャット形式にて、WEB参加者からも質問を受け付けた。</p>		
	13:30~13:35	開会挨拶・趣旨説明、事務連絡 (一社)建設コンサルタンツ協会関東支部河川専門委員会 委員長 筒井胤雄	
	13:35~14:05	テーマ1:鋼矢板技術の基礎 [講師](一社)鋼管杭・鋼矢板技術協会 港湾・河川技術委員会 技術委員 時田 知典	
	14:05~14:40	テーマ2:鋼矢板・鋼管矢板・鋼管杭に関するQ&A [講師](一社)鋼管杭・鋼矢板技術協会 港湾・河川技術委員会 技術委員 荒木 優介	
	14:40~14:55	休 憩 (15分)	
	14:55~15:40	テーマ3:設計実務者が選ぶ鋼矢板技術に関するQ&A(応用編) [講師](一社)建設コンサルタンツ協会関東支部河川専門委員会 委員 中山 修作 (一社)鋼管杭・鋼矢板技術協会 港湾・河川技術委員会 委員長 河野 謙治、河川チーム長 乙志 和孝	
	15:40~16:25	テーマ4:鋼矢板技術に関する最新動向 [講師](一社)鋼管杭・鋼矢板技術協会 港湾・河川技術委員会 河川チーム長 乙志 和孝	
	16:25~16:30	閉会挨拶・事務連絡 (一社)鋼管杭・鋼矢板技術協会 港湾・河川技術委員会 技術委員長 河野 謙治	

2. 講習会内容

- ・セッション1では、今回若手技術や他分野の方も多く参加されていることから、鋼矢板技術の基礎として、関連するマニュアルや鋼矢板の規格、防食加工、基本的な設計手法等について解説した。
- ・セッション2では、昨年の講習会で後日質問があった内容を含め、協会によくある質問を中心にQ&Aで整理し、解説した。
- ・セッション3では、河川専門委員会の中から日頃疑問に思っていることや不明点について、整理し、設計技術者の視点での質問について整理し、建コン河川専門委員会委員と鋼管杭・鋼矢板技術協会の委員に加え、Webチャットからも質問を受け付け、ディスカッション形式での講演を行った。
- ・セッションの4では、鋼矢板技術に関する最新動向として、昨年も紹介のあった鋼矢板を用いた河川堤防の補強技術のその後の動き等について講演した。



鋼管杭・鋼矢板技術協会講師による講演状況



鋼管杭・鋼矢板技術協会委員とコンサルタンツ協会関東支部河川専門委員会委員、Web参加者も加えたディスカッション形式での講演

3. アンケート結果

講習会終了後に、講習会の内容についてアンケートを Web 方式で実施した。

- ・参加者は、20代、30代がそれぞれ約35%と最も多く、40代から60代がそれぞれ10%前後であった。実務経験では、5年未満、10年未満がそれぞれ約30%と最も多かった。
- ・参加者の所属先は、建設コンサルタントが100%で、所属部門は、「河川－構造系」が約45%と最も多く、続いて「道路」が約13%、「下水道」が約7%、その他は技術系10部門の所属で各5%以下であった。
- ・講習会への参加の動機は「仕事に役立つと思った」が約30%と最も多く、続いてテーマ1の「河川工事に関する鋼矢板・鋼管矢板・鋼管杭の基礎技術」が約20%であった。
- ・ライブ配信の聴講しやすさについては、聴講しにくいと回答した参加者はおらず、次回以降の講習会の実施方法についても、ライブ配信が95%以上であった。また、ライブ配信の良かった点については、「会場までの移動が不要」という回答が最も多かった。
- ・受講料については、「妥当」が90%以上、「安い」が残り10%で、「高い」という回答はなかった。
- ・テーマ1～4の講習内容については、いずれも「大変参考になった」「適当である」との回答がほとんどで、テーマ1、3については、「内容が難解である」との回答が1名のみあった。一方、テーマ1については、「内容が平易である」との回答も1名のみあった。
- ・テーマ1～4の講習テキストについても、同様に「大変参考になった」「適当である」との回答がほとんどでテーマ1、3については、「内容が難解である」との回答が各1名、テーマ3については、「あまり役に立たない」との回答が1名のみあった。
- ・講習時間については、「適当だった」との回答が大部分であったが、「足りない」との回答が、テーマ2が2名、テーマ3が1名あった。また、テーマ2については、「その他」が1名おり、「項目を減らして1つに時間を割いてもらった方がわかり易い」との意見があった。
- ・以上より、本講習会の内容は十分に役立つものであったと評価される。

以上。